

「賀川豊彦のお宝発見」その3

新聞記事にみる賀川豊彦 (42)

1910 (明治43) 年~1963 (昭和38) 年 (神戸版)

第42回 「愛護教育講座」「賀川記念館建設計画」

「神戸市愛護教育夏季講座」

1957 (昭和32) 年8月18日「神戸新聞」

子供の人權を守ろう

夏季講座 先生たちもお勉強

東井義雄氏を囲んでの懇談会がある。

また各分科に分れて子供の人權を守るために学習の場はどつあるべきか、家庭への働きかけなどについて協議する。

小中学校の先生に子供の人權を再認識させようという「愛護教育夏季講座」が、市教委、市愛護教育連盟、兵教組神戸支部共催で二十六日から三日間、生田区トアロード県社会事業会館で開かれる。

市教育委員賀川豊彦氏の「教育に期待するもの」神大助教授和田鶴蔵氏の「子供の人權と教育」竜谷大教授森秀雄氏の「インド民族の荒廃と建設」西宮市立瓦木小学校教諭戸田唯巳氏の「学級という仲間」などの話を聞いたのち「村を育てる学力」の著者、出石郡相田小学校教諭

子供の人権を守ろう

夏季講座 先生たちもお勉強

小中学校の先生に子供の人権を再認識させようという「愛護教育夏季講座」が、市教委、市愛護教育連盟、兵教組神戸支部共催で二十六日から三日間、生田区トアロード県社会事業会館で開かれる。

市教育委員賀川豊彦氏の「教育に期待するもの」神大助教授和田鶴蔵氏「子供の人権と教育」竜谷大教授森秀雄氏「インド民族の荒廃と建設」西宮市立瓦木小学校教諭戸田唯巳氏の「学級という仲間」などの話を聞いたのち「村を育てる学力」の著者、出石郡相田小学校教諭東井義雄氏を囲んでの懇談会がある。

また各分科に分れて子供の人権を守るために学習の場はどうあるべきか、家庭への働きかけなどについて協議する。

イエス団が神戸妻合に「賀川記念館」

中学生の就職指導も

明後年 救済事業始めて50年

第一回の県議に出馬するときイエス団を運営事務所にした阪本さんも大いに賛成、さっそく発起人を引受けた。全国でも賀川氏とゆ

かりの深い杉山衆院副議長、水谷長三郎氏らもつきつき発起人に名を連ねた。一方地元ではイエス団の世話役である武内勝氏（タモ）を中心に具体的計画を練った。いまのところ神戸妻合警察署の東隣りに鉄筋三階建三百坪の社会事業セン

ター「賀川記念館」を建てることになっている。総工費は二千万円の予定で全国の賀川氏と関係の深い社会事業団体の事務所として、これまでまちまちの事業を進めていたのを今後はここで統一して組織的に事業を進めようという。ま

る。同氏とゆかりの深いイエス団（同区吾妻通五）は五十年の献身を記念して「賀川記念館」（仮称）のような社会事業センターを作ることになり、杉山衆議院副議長、阪本知事ら賀川氏の友人たちが発起人になり計画を進めている。

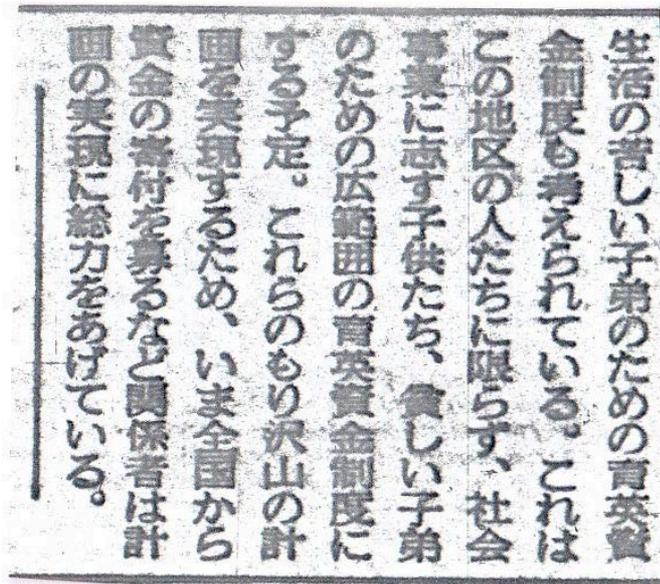
た生田川地区の中学生を最後の一年間ここに集めて集団生活をさせ、就職の便をはかる施設にもする。

神戸市教育委員の賀川豊彦氏が神戸聯合区生田川地区の貧しい人たちの間に身を投じて救済事業をはじめてから明後年で五十年にな

り。賀川氏が生田川地区のスラム街に入ったのは二十一年歳のときで明治四十一年。それ以来貧しい人たちの父ともなり、兄ともなつて同地区の改善に尽してきた。パイオニア賀川氏の志を継ぐ人たちもつぎつぎと現われ日かけの街といわれたこの地区にもだんだんと明るい太陽がさ

し始めた。それから今年は四十八年目。昭和三十四年に迎った五十周年には賀川氏とゆかりの深いイエス団が中心になって社会事業センターを作ろうということになった。

これまでこの地区の人たちというだけで白眼視され、就職も難しかった。中学卒業予定者をはじめはわずかずつでもここに集めて、宗教、職業教育をして卒業のときは同館が保証人となり少しでも就職の条件をよくしようというもの。そのほかこの地区の人たちのための金利の安い質屋などの設置も考えている。また一千万円の予定で



(2011年4月20日記す。鳥飼慶陽)

イエス団が神戸葺合に「賀川記念館」

中学生の就職指導も

明後年 救済事業始めて50年

第一回の県議に出馬するときイエス団を選挙事務所にした阪本さんも大いに賛成、さっそく発起人を引受けた。全国でも賀川氏とゆかりの深い杉山衆院副議長、水谷長三郎氏らもつぎつぎ発起人に名を連ねた。一方地元ではイエス団の世話役である武内勝氏(六五)を中心に具体的計画を練った。いまのところ神戸葺合警察署の東隣りに鉄筋三階建三百坪の社会事業センター「賀川記念館」を建てることになっている。総工費は二千万円の予定で全国の賀川氏と関係の深い社会事業団体の事務所として、これまでまちまちの事業を進めていたのを今後はここで統一して組織的に事業を進めようという。また生田川地区の中学生を最後の一年間ここに集めて集団生活をさせ、就職の便をはかる施設にもする。

神戸市教育委員の賀川豊彦氏が神戸葺合区生田川地区の貧しい人たちの間に身を投じて救済事業をはじめてから明後年で五十年になる。同氏とゆかりの深いイエス団(同区吾妻通五)は五十年の献身を記念して「賀川記念館」(仮称)のような社会事業センターを作ることになり杉山衆議院副議長、阪本知事ら賀川氏の友人たちが発起人になり計画を進めて

いる。

賀川氏が生田川地区のスラム街に入ったのは二十一歳のときで明治四十一年。それ以来貧しい人たちの父ともなり、兄ともなって同地区の改善に尽くしてきた。パイオニア賀川氏の志を継ぐ人たちもつぎつぎと現われ日かげの街といわれたこの地区にもだんだんと明るい太陽がさし始めた。それから今年も四十八年目。昭和三十四年に迫った五十周年には賀川氏とゆかりの深いイエス団が中心になって社会事業センターを作ろうということになった。

これまでこの地区の人たちというだけで白眼視され、就職も難しかった。中学卒業予定者をはじめはわずかずつでもここに集めて、宗教、職業教育をして卒業のときは同館が保証人となり少しでも就職の条件をよくしようというもの。そのほかこの地区の人たちのための金利の安い質屋などの設置も考えている。また一千万円の予定で生活の苦しい子弟のための育英資金制度も考えられている。これはこの地区の人たちに限らず、社会事業に志す子供たち、貧しい子弟のための広範囲の育英資金制度にする予定。これらのもり沢山の計画を実現するため、いま全国から資金の寄付を募るなど関係者は計画の実現に総力をあげている。